# 第６回　仙台市総合計画審議会議事録

日　　時　　令和元年７月 10 日（水）　18：00～20：20
会　　場　　ＴＫＰガーデンシティ仙台勾当台　ホール１
出席委員　　阿部一彦委員、阿部重樹委員、飯島淳子委員、岩間友希委員、姥浦道生委員、遠藤耕太委員、遠藤智栄委員、奥村誠委員、小野寺健委員、折腹実己子委員、柿沼敏万委員、鎌田城行委員、菊地崇良委員、小岩孝子委員、今里織委員、今野彩子委員、今野薫委員、榊原進委員、佐々木綾子委員、佐藤静委員、庄子真岐委員、竹川隆司委員、舘田あゆみ委員、傳野貞雄委員、永井幸夫委員、中坪千代委員、浜知美委員、舟引敏明委員、やしろ美香委員、渡邉浩文委員［30 名］
欠席委員　　なし
仙台市（事務局）　　郡市長、福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、郷湖政策企画部長、松田政策企画課長、柳沢政策企画課主幹、千代谷政策企画課主幹
議　　事　　１　開会
２　市長挨拶
３　議事
(1) 仙台市総合計画審議会における審議経過について
(2) 市民参画事業について
(3) 部会委員について
(4) テーブルディスカッション
(5) その他
４　閉会
配付資料　　１　仙台市総合計画審議会委員名簿
２－１　第５回仙台市総合計画審議会 追加意見
２－２　都市像とまちづくりを進めるうえで大切にしたい価値観
・重点的な取り組みの視点（再修正案）
２－３　仙台市総合計画審議会における審議経過（再修正案）
３－１　市民参画イベントについて
３－２　市民アンケートについて
４　地域とくらし部会委員名簿
まちと活力部会委員名簿
５－１　テーブルディスカッションの進行について
５－２　各テーブルのディスカッションテーマ
６　テーブルディスカッション参考資料

１　開会
○奥村誠会長
審議会を開会いたします。

議事に入る前に定足数等の確認を行います。事務局から報告をお願いします。

○郷湖政策企画部長

本日は、30名全員の委員の皆さまにご出席をいただいておりまして、定足数を十分満たしていることをご報告いたします。

続きまして、委員の変更についてご報告を申し上げます。審議会委員名簿を資料１としてお示ししておりますけれども、仙台市連合町内会長会からのご推薦により、新たに傳野委員がご就任されましたのでご報告させていただきます。

○奥村誠会長

はい。承知いたしました。傳野委員からは、後ほど一言ご挨拶いただきたいと思います。

次に、会議の公開・非公開の取り扱いですが、前回と同様、公開としたいと思いますがよろしいでしょうか。

（了承）

○奥村誠会長

はい。それでは公開といたします。

続いて、本日の議事録署名委員の指名ですが、前回は姥浦委員、遠藤耕太委員とお２人が欠席でしたため、遠藤智栄委員にお願いいたしました。五十音順で決めておりましたので、今回は戻って姥浦委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○姥浦道生委員

（了承）

○奥村誠会長

よろしくお願いいたします。

事務局から資料等の確認をお願いします。

○郷湖政策企画部長

お手元に本日の資料一式を綴じた、ファイルを置かせていただいております。そちらの方をお開きいただきたいと思います。順に、座席表、次第、資料一覧、資料１、資料２－１から資料２－３、１枚もので資料２－３別紙、資料３－１、資料３－２ 、資料４の方が２枚ございます。資料５－１ 、資料５－２、資料６。

前回よりも過去の審議会資料につきましては、事務局の方でお預かりしております。挙手にてお伝えいただければお席までお持ちいたしますので、よろしくお願いしたいと思います。

以上、資料の過不足などございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

はい、それでは本日は、この後の議事で、これまで５回にわたりご審議いただいた経過

をいったん確認する予定としておりますが、それに先立ちまして、郡市長より一言ご挨拶を申し上げたいと思います。市長よろしくお願いいたします。

2　市長挨拶

○郡市長

皆さまおばんでございます。大変お疲れさまでございます。

お忙しい中をこのように仙台市の次期総合計画に向けての審議を皆さま方に推し進めていただいていること、改めまして厚く御礼申し上げます。今日この会場にまいりまして、委員の皆さま方の表情のなんと明るいことか。過去５回の審議会の議事録も拝見させていただいているのですけども、行間には表れていない密な関係性というのでしょうか。そういうものを伺い知ることができて大変うれしくも思ったところでございます。本当にありがとうございます。

今日の審議会では、まちづくりを進める上で大切にしていきたいという、その価値観と、それを生かした重点的な取り組みの視点を中心に、これまでご議論をいただいたところを、ある程度整理していただいて、一定の取りまとめをしていただくというふうに伺っているところでございます。奥村会長をはじめ、皆さま方に本当にお力をいただいていること、改めまして感謝を申し上げたく存じます。

昨年の 10 月に諮問をさせていただきました。冒頭も申し上げましたけども、本当に毎回毎回活発なご議論をいいただいていること大変うれしく思っているところでございます。本市の現状、そして課題を踏まえた上で課題解決型にとどまらず、未来志向のまちづくりについて審議が行われてきているということ、本当に頼もしく思っております。

これからの人口減少や少子高齢化が進んでいく中で地域課題というのも大変複雑化してまいりますし、多様化してまいります。そういう中にあっても本市がこれまで培ってきた強みというのを最大限生かして市政に臨んでいけば、これはもう持続的な発展が可能であると思っておりますし、仙台市民の皆さま方お一人お一人の夢や希望を育んで、それぞれの活躍を支え続けるまちになるということは、十分可能だと思っております。

現在の市政運営におきましては、「暮らしていくなら仙台、働くなら仙台、子育てするなら仙台」というふうに選んでいただけるような仙台にしたいと取り組んでいるところでございます。「子育てするなら仙台」と申しましたけれども、妊娠や出産、教育を含めて、大変いろいろな課題があるわけです。それでも、仙台は、安心して、そしてまた子どもを育てるのに十分パフォーマンスのあるところだと思っていただけるように頑張ってまいりたいと思います。

また、地域経済の活性化、地域コミュニティーづくり、学びと育ちの環境づくり、各般の施策に力を入れているところでございますけれども、なお一層皆さま方のお力をいただきまして、取り組んでまいりたいと思います。審議経過におまとめいただいております７つの重点的な視点、これも私の思っている方向性と同じであろうと、そのように認識をしております。

審議の中で、いわゆる掛け算の視点というのを大切になさるというお話が出ております。これも本市で今年の３月に策定をさせていただきました「仙台市経済成長戦略 2023」の柱

の１つとしてＸ－ＴＥＣＨ（クロステック）ということを打ち出させていただいております。これはまさに介護ですとか、福祉ですとか、医療ですとか、防災といった分野の施策にＩｏＴ、ＩＴ技術を組み合わせて、それぞれの相乗効果を図っていく、業務の効率化や新規サービスの創出を図るというものでございまして、まさにその議論と同じものであろうと私自身認識をしております。

また、今年度から、本市の中心部での都心機能の強化と、緑豊かで潤いのある自然環境とが調和をいたしました都市空間の創出を目指して「（仮称）都心再構築プロジェクト」に着手いたしました。民間事業者のニーズや投資意欲を踏まえながら、都市計画、企業誘致策、また、規制緩和といった各種の行政手法を重ね合わせて取り組みを展開してまいりたいと、このように考えているところでございます。

今申し上げた２つはあくまでも一例でございますけれども、異なる分野の施策の掛け合わせから相乗効果を生み出そうというこのアプローチというのは、審議会の皆さま方の議論の進め方と共鳴するものであって、私といたしましても、大変心強く感じているところでございます。

引き続き、各分野を代表される専門的な見地と実践的なご意見を踏まえた、闊達なご審議、これをいただくことをお願い申し上げまして、私からの挨拶にさせていただきます。皆さま方の信頼関係の上に成り立ったご議論をさらに進めていただきますようによろしくお願い申し上げまして、私の挨拶といたします。よろしくお願い申し上げます。

○奥村誠会長

市長、どうもありがとうございました。委員の皆さんのご協力により、これまで５回審議をしてまいりましたけれども「新たな杜の都」というのを、重要な視点を掛け合わせて作っていくという方向性、そこから出てきている７つの視点というところについて、今、市長さんからのお話で、現在力を入れられている市の取り組みと重なり合っているのだとご紹介がありましたので、大変心強く思っております。

審議会の議論というのは、先を見据えながらの 10 年、10 年経ったところで仙台がこうあってほしいなというようなことを考えながら作っていくということになりますので、現在行われている取り組みに合っているかどうかだけではなくて、もう少し長期のスパンで考えていくということも必要かと思いますけれども、引き続き、委員の皆さまのお知恵も借りて、市長からもお話がありましたような、「暮らしていくなら仙台、何をするにも仙台、税金払うのも仙台」と、そうなっていただくといいなと思っております。そうなるように、答申案を策定できるように引き続き取り組んでいく所存でございます。どうもありがとうございました。

○郷湖政策企画部長

市長でございますが、この後所用がございますため、ここで退席をさせていただきます。

○郡市長

どうぞよろしくお願い申し上げます。

３　議事

(1) 仙台市総合計画審議会における審議経過について

○奥村誠会長

それでは議事に入りたいと思いますが、その前に新たに委員となられました傳野委員から、一言だけご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いします。

○傳野貞雄委員

ただ今ご紹介いただきました、仙台市連合町内会会長会の会長に５月から就任いたしまして、今日この審議会に呼ばれました。今、市長のお話にもありました通り、「暮らしていくなら仙台」というようなこと、「住むなら仙台」ということで、私 30 代で岩手県の花巻から移住しまして、ここを終の棲家と定めました。

仙台をより良くするために、皆さんの仲間に入れさせていただいて、審議会を推し進めたい、一生懸命お手伝いをしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○奥村誠会長

ありがとうございました。それでは議事に入ります。議事の第１は「仙台市総合計画審議会における審議経過について」です。前回、皆さまのご意見もいろいろいただきましたので、それを踏まえて修正をいたしております。まずは修正点等を事務局から説明いただきます。事務局の方、お願いします。

○松田政策企画課長

資料２－１から２－３別紙まで一連の流れでご説明申し上げます。まず資料２－１でございますが、こちらは前回の審議会以降、追加でいただいたご意見をまとめさせていただいたものでして、今回は姥浦委員からご意見いただきました。内容としましては、今後に向けた掛け算の議論についてのご意見、そしてまた審議経過資料について、より適切な文言や表現についてのご提案を細やかにいただいたところでございました。

掛け算の議論につきましては、本日予定しておりますテーブルディスカッション、そして 10 月からの部会で展開をしていくということで、最終的な計画も、この掛け算の趣旨が見えるようなまとめになりますよう、事務局としても資料づくりであるとか、それから２つの部会の間の情報共有などに努めさせていただきたいと思っております。また、審議経過の文言・表現につきましては、ご提案いただいた内容を可能な限り反映をさせていただきました。ありがとうございます。

続いて資料２－２になります。Ａ３の資料になりますけれども、こちらは第２回の審議会以降、この資料を基に都市像、そして重点的な取り組みを議論していただいたところでございます。前回の審議会でも、追加・修正のご意見をいただいたところでございまして、朱書きで追記・修正をさせていただいております。主に今後の議論の参考となります右側のキーワードについてご意見をたくさんいただきました。

続きまして資料２－３、審議経過の再修正案をご覧いただきたいと思います。こちら、

これまでの審議会での議論をいったん整理する趣旨で作成したもので、第３回の審議会でお示しをして以降、これまで２回の審議会でご意見をいただいております。本日の資料は、前回の審議会でお示ししたものの再修正案ということでございました。修正した点につきまして、主な部分のみご説明を申し上げたいと思います。

まず２ページをご覧ください。２ページには、人口推移と将来の見込み等の表やグラフを掲載しておりますが、前回非常に小さく見えづらいとのご指摘をいただきましたので、拡大するなどして少し見やすくさせていただきました。

続きまして５ページをお開きください。こちらは４つの都市個性を活かした「新たな杜の都」に向かうそのイメージについて、４つの都市個性が重なり合って木が育っていくようなイメージがいいのではないかというようなご意見が複数の委員からありました。ご意見を踏まえまして作成した図をこの資料の後ろに資料２－３別紙で配布させていただいております。１枚ペーパーの資料２－３別紙になります。前回のご意見をなるべく反映させるかたちで作成させていただきましたので、もしご異議がなければ５ページにあります図をこの資料２－３別紙に置き換えたいと考えているところでございます。

続きまして６ページをお開きください。６ページ、４つの都市個性の説明が書いてある部分でございますが、前回、共生の都市個性の背景の部分に、「市民の主体的な行動力」についての記載があまり見受けられないとのご意見をいただきましたので、背景の中段に、まちの住みよさを守った象徴的な取り組みとして、スパイクタイヤの全廃に向けた動きの記載を追加させていただいたところでございます。

続いて 12 ページをご覧ください。12 ページは視点４「仙台で育つ」のページでございますけれども、こちらの副題につきまして「子どもを産み育てたいと思えるまちづくり」という表現について、もう少し配慮をいただいたような表現をとご意見がありましたので、「子ども・子育て応援まちづくり」というようなタイトルに今回はさせていただいたところでございます。また、取り組みの中で、子どもたちの育みには企業の力も大きいのではとのご意見がありましたので、下の方、取り組みのイメージの「学びの充実」のところに主体が並んでおりますが、その中に「企業」を加えさせていただきました。また、ご意見の中で、仙台市が今行っております「仙台自分づくり教育」を記載させていただいておりますが、内容についてよく分からないというご意見もいただきましたので、下の方に、現在仙台市が取り組んでいる施策についての概要を記載させていただいております。

次に 13 ページをご覧ください。こちらは「仙台で学ぶ・活かす」のページでございまして、前回たくさんのご意見をいただいたところでございました。まず、タイトルですが、前回お示しした「仙台で学び合う」というタイトルだと、どうしても勉強するというようなイメージになってしまうというご意見であるとか、もっとクリエイティブが表れる表現がいいのではというところ、学びを活かすという視点を入れた方が良い、などご意見をいただいたところでございましたのでタイトルを「仙台で学ぶ・活かす～学びの環境づくりとチャレンジ応援～」としたところでございます。

また、施策形成の背景の部分ですが、こちら地学連携ということで、大学や学生の連携が、当初お話が出ましたが、地学連携に特化せずに、もっと幅広い学び、学び直しとか生きがいづくりを含め、生涯にわたる多様な学びにつながるように施策形成の背景のところ

を修正させていただきました。

また、取り組みのイメージも前回いただいたご意見を踏まえまして、大きく３つの項目に分けさせていただきました。１つ目の「地学連携の場づくり」につきましては、イノベーションが生まれるよう産業につながるイメージをとのご意見もありましたので、取り組みのところに、最後の方になりますけれども「知的資源の創出・活用」という項目を追記しました。また、追加でいただいたご意見で「大学間の連携」についても必要だというご意見がありましたのでこちらも盛り込んでおります。

３つ目の項目の「多様な学びの環境の充実」につきましては、学びたい高齢者の増加、こちらを踏まえました生涯学習の視点であるとか、学び直しの視点でリカレント教育などを追加しております。

最後に 16 ページをご覧ください。こちらは「持続可能な都市運営に向けて」でございますが、前回「市役所の組織風土」という表現につきまして、趣旨が良く分からない、不明確だというご意見等々を複数の委員からいただいたところでございました。こちらの方は削除させていただきました。また市民協働については、十分な議論をまだこの場でしていないので今回は記載せずとも良いのではとのご意見があった一方で、これまで市民協働や安定的な財政運営の視点も必要とのご意見もいただいたところでございます。

この部分につきましては、ご指摘の通り、これまでこの部分だけを取り出して議論を十分にしてきていただいているわけではないのですけれども、一方で、市民協働に関しましてはこれまでも個々の取り組みに関するご意見の中で、例えば市民や地域、そして企業、大学など多様な主体との連携についても必要だというようなご意見等々をいただいてきているところでございました。そういったところもありましたので、項目としてはこのように残させていただきまして、全体の表現を端的にまとめまして、最後「これらについては、今後の協議課題としていきます」というふうに結ばせていただいたところでございます。

○奥村誠会長

ご説明ありがとうございました。前回もたくさんのご意見をいただきましたので、事務局と相談しながら、別紙にある都市個性の杜のイメージ図も含めて、再修正案をお示しさせていただきました。この審議経過は、繰り返しになりますけれども、これまでの議論を踏まえてのいったんの取りまとめ、それから部会の議論に入っていくという趣旨で、バージョンアップを図ってまいりましたけれども、これを完成形とするよりは、これを参照しながら、次の手がかりにするという趣旨でございますので、これをもっと細かいところは違うんだというよりは、ここのところでまとめさせていただければありがたいと思っておりますので、まだまだご意見はたくさんあるとは思いますけれども、いったんの一区切りということで、この再修正案をもって、これまでの審議会の議論の確認ということにさせていただければと思いますけれども、よろしいでしょうか。

（了承）

○奥村誠会長

はい。ありがとうございます。では次の部会からは、事務局から７つの視点についてもう少し具体的な議論の材料を出していただきながら審議を進めていくということにしたいと思います。

最後に、今後の部会の進め方について、提案あるいは言いたいことがありましたら、ご意見を伺いたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○佐藤静委員

すみません、ちょっと確認です。テーブルディスカッションは今日初めてなんですけども、今後こういうかたちで進むことになるのでしょうか。

○奥村誠会長

いいえ。違います。

○佐藤静委員

そうですか。

○奥村誠会長

部会は前回の審議会で決定した通り、２つの部会に分けました。２つの部会に分けましたので、いつもの審議会よりは半分の人数になるのですけども、今日は議論を始めるにあたって自由にお話を、論点を出していただくのがよかろうというかたちでこのようにしておりますが、次回からこのようなかたちになるというわけではありません。

○佐藤静委員

そうすると今日私は「地域とくらし部会」に所属しますが、テーブルがＡとＤに分かれています。私が関心のあるテーマがＡの方になっていたので、今後こんなかたちで、こういう振り分けになるのかなと、ちょっと心配をしておりました。

○奥村誠会長

そういうわけではありません。

○佐藤静委員

どうもありがとうございます。

○奥村誠会長

今のこともありますけども、基本的には先ほどの途中の説明にもありましたように、掛け合わせと言っておりますので、まずこういうことを中心にそれぞれのところで意見を出していただくのですけれども、はみ出てこういうことと関係あるのではないか、これと発展するのではないかというような意見を出していただきたい、ということです。

取りあえずのテーマとはこのようなものかなというのはお示ししていますけれども、そのテーブルでそのことだけについて話をしていただこうと思っているわけではございませんので、どうぞご自由に、議論が始まりましたらご発言をお願いします。ほかよろしいでしょうか。

ありがとうございます。部会におきましても引き続き、よろしくお願いいたします。

(2) 市民参画事業について

○奥村誠会長

議事の第２「市民参画事業について」、事務局から報告があるとのことです。説明をお願いします。

○松田政策企画課長

資料３－１と３－２についてご説明申し上げます。まず資料３－１をご覧いただきたいと思います。

こちらは、３月に行った第４回の審議会でお示しをさせていただいた、今年度の市民参画事業等のうち、10 月からの部会開催の前に行う２つのイベント事業について掲載させていただいたものでございます。１つは「せんだい中高生会議」でございます。こちらは７月に開催する予定です。これまでも昨年 11 月には全市民イベント、そして２月、３月には区ごとのイベントで市民・区民の方のご意見をお聞きしてきたところでございますけれども、大学生などの参加は一定程度来ていただいておりましたが、どうしても中高生、本当に若い世代の方々の参加が十分ではなかったということから、仙台の未来を担う若い世代からのご意見をワークショップ形式で考えていただき、お聞きをしたいと考えております。当日のファシリテーターは岩間委員にお願いしておるところでございます。

２つ目は、「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり 2019～」でございます。こちらは昨年 11 月に総合計画の策定に向けたキックオフイベントとして行った「未来づくり」の第２弾を行うものです。現在、今の実施計画の進捗管理の一環として、施策の取り組みを市民の皆さまに評価していただく「市民まちづくりフォーラム」というものを毎年仙台市では開催しておりますが、それと併せて 10 月に開催する予定です。参加される方々に対しましては、本日審議いただきました審議経過の７つの視点に関連したテーマごとに、グループに分かれまして関連する現在の仙台市の取り組みの評価とともに今後の取り組みについて話し合っていただく予定でございます。

続きまして資料３－２をご覧ください。こちらは、市民アンケートについてでございます。本日いったん取りまとめました審議経過の概要を、市政だより９月号で特集記事として概要を掲載する予定でございますが、併せて市政だよりにとじ込みはがきによるアンケートを実施するものでございます。市政だよりはご存知の通り全世帯へ配布されるものでございますので、全市民に向けたアンケートということになります。

アンケートは、問１として、「今後仙台市が力を入れていくべき」と考える取り組みなどについて自由に記載いただく部分と、問２として、７つの視点ごとに、現在の仙台市の取り組みへの評価、そして重要性についてお聞きをするものでございます。アンケート結

果は 11 月を目途に取りまとめまして、審議会の部会でご報告をしてまいりたいと考えております。

○奥村誠会長

今の説明についてご質問がありましたらどうぞ。よろしいでしょうか。

（了承）

これまでの審議会でも、若い世代の市民参画、市民の参画についてのご意見が出されていたと思いますけども、今回中高生世代向けのイベントを別個に開催していただくということは大変興味深い、良い取り組みだと思います。

また、市民参画イベント、それから秋に行う市民アンケートの方ですけれども、我々の議論が進んできまして７つの視点というのをまとめてきておりますけれども、具体的にそれをお示ししてどれだけ達成できているか、これから伸ばしていってほしいかという市民の意見をいただくという良い機会になるかと思います。進めていただければというふうに思います。

(3) 部会委員について

○奥村誠会長

次に議事の第３「部会委員について」、事務局から報告があるとのことです。説明をお願いします。

○松田政策企画課長

それでは、資料４をご覧ください。部会ごとの名簿２枚ご用意してあります。こちらは前回設置しました２つの部会の部会委員の名簿でございます。前回以降、各委員に所属部会のご希望をお聞きしまして、すでに各委員には会長からの指名の文書が送付されているかと思います。本日名簿というかたちでお配りさせていただきました。

今後はそれぞれの部会で議論を深めていただくことになりますけれども、開催につきましては、事務局の体制もありますことから、同時の開催ではなく、別日時での開催とさせていただきたいと考えております。ただ両部会の審議の進捗に開きが生じないように、なるべく近い日時で開催させていただきたいと思います。なお、部会長につきましては、10 月に予定している第１回の部会でそれぞれの部会で互選により選出をする予定でございます。

○奥村誠会長

部会委員については、皆さまにご希望をお伺いした上で、指名の通知を送らせていただきましたけれども、名簿のかたちで本日お示しさせていただきました。このメンバーで、次回から部会の審議を進めるということでお願いいたします。今話がありましたように、部会長については、第１回の部会の冒頭で、互選によって決めるということになりますの

で、どうぞよろしくお願いいたします。互選ですからその時に是非立候補していただいてと思います。

この件についてよろしいでしょうか。

（了承）

(4) テーブルディスカッション

○奥村誠会長

議事の第４「テーブルディスカッション」です。まずは事務局より、テーブルディスカッションの進行について概略の説明をお願いします。

○松田政策企画課長

それではテーブルディスカッションについてご説明いたします。資料が資料５－１、５－２、６とございます。まず資料５－１をご覧いただきたいと思いますけれども、テーブルディスカッション、審議会では初の試みということになっております。まず目的の方を確認させていただきますけれども、より少人数によるテーブルディスカッションを行いまして審議経過における重点的な取り組みのイメージについて、改めて幅広く意見交換をする時間を持ちたいということ。そして部会に向けて議論を深める機会と考えております。結果は、取りまとめのうえ第１回の部会における審議会の参考とするということで、資料の方でまとめたいと考えております。

本日はこれから、２つの部会の委員をさらに２つに分けまして、ＡＢＣＤ合計４つのテーブルでディスカッションを行っていただくことになります。

それぞれのテーブルがメインでディスカッションいただくテーマは、部会が所管する４つのテーマを２つに分け、それぞれ２つずつとしております。資料の中段にテーブルＡからＤまで２つずつのテーマを用意しておりますが、先ほど会長からも話がありましたように、このテーマ以外はディスカッションしてはいけないということではもちろんなくて、ほかのテーブルのテーマも絡めながら掛け算の議論をしていただくという趣向でございます。進行に当たりましては、あらかじめ、テーブルごとに進行していただくテーブルリーダーをお１人ずつお願いしております。遠藤智栄委員、岩間委員、榊原委員、浜委員の４人の方々にお願いしておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

ディスカッションの内容ですが、先ほどご審議いただきました、審議経過の７つの視点ごとの取り組みのイメージを書いておりましたが、もっとほかにもこういう取り組みイメージ、取り組みがあるのではないか、といった幅を広げるご議論であるとか、それから取り組みのイメージについて、７つの視点を掛け合わせ、より相乗効果の高い取り組みを生み出すといったような、議論を掛け算で深めていくようなご議論もお願いできればと思っております。

ディスカッション後にテーブルリーダーから３分程度で成果の方も発表いただきたいと考えております。ご発言の内容は、お手数ですが今後の取りまとめのために、付箋に書き込んでいただきましてテーブルごとに模造紙をご用意しておりますので貼り付けをお

願いしたいと思います。

資料５－２でございますが、こちらはテーブルごとのテーマと審議経過でまとめました取り組みのイメージを改めて掲載させていただいております。

資料６をご覧いただきたいと思います。こちらはテーブルディスカッションの参考資料ということでございまして、関連するデータをまとめたものでございます。データに基づく評価であるとか議論の重要性につきましては委員の方々からもご意見をいただいておりますので、議論の参考にしていただければと思います。仙台市のデータのほか、可能な限り比較ができますように政令市のデータも掲載しております。

○奥村誠会長

ありがとうございました。なにぶん初めての取り組みですので分かりにくい、やってみないと分からないところもありますが、今までの説明についてご質問があればお受けしますがどうでしょう。やってみますか。テーブルリーダーに力があるのでたぶん大丈夫だろうと思います。

それでは、テーブルディスカッション時の傍聴に関する注意点をお話いたします。

本審議会は公開となっておりますし、テーブルディスカッションは審議会の一部と位置付けておりますので、傍聴できるようにしたい。しかしテーブルディスカッションのところではマイクは使用しませんので、傍聴をどうやってするのだろうということがございました。そこでお話していることを聞きたいということであれば、各テーブルの近くに傍聴席を設けましたので、そこのところに着座をしていただいて傍聴するということをお認めしたいと考えております。

途中、座席を移動してほかのテーブルを傍聴しても構いませんけれども、やはり話している側に影響が少ないように、床に緑色のテープが貼ってあるのですが、その中から入らないようにお願いします。報道機関の方も、目張りのテープより中に入っての撮影はしてもよろしいですが、審議の支障にならないように、あまり長時間同じところでご撮影していただかないようにご配慮をお願いします。

次に議事録の公開です。これまで審議会後１週間程度で事務局の責任で議事概要を公表してきました。今回のテーブルディスカッションの部分については、テーブルディスカッションでの意見が記載された模造紙等付箋の画像をもってディスカッションの内容を公開することに代えたいと思っております。

最終的な議事録についてですが、模造紙及び付箋に記載された意見について、発言者までは記載はいたしませんが、文字に起こしてまとめたものをもって代えることとしたいと思います。

それから議事録の署名ですが、冒頭で姥浦委員を指名いたしましたが、４つテーブルがありますので、各テーブルリーダーにも議事録の署名をお願いしたいと思います。岩間委員、遠藤智栄委員、榊原委員、浜委員さん、その点よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

では準備もありますので、ここでいったん 10 分間の休憩を取ります。18:50 から始めましょう。はい、いったん休憩とします。

（休憩）

(4) テーブルディスカッション（再開）

○奥村誠会長

もう始めてしまっているところもありますので、お待たせせずに時間を使いたいと思います。再開をいたします。これから各テーブルリーダーの進行の下で、60 分間ディスカッションをしていただきます。各テーブルには、取り組みの視点を２つずつテーマとして割り当ててありますので、取りあえず議論の出発点としてはそこからということでお願いできればと思います。

ただ、お話しいただいている中で、当然その２つのテーマからはみだす、あるいはちょっとここことは違うけどこれには関係するかということが出てくると思いますが、それについては掛け算の議論というのを最初に言っていますように、当然出てくるだろうと思いますので、それはウエルカムだと思っています。

最後に、各テーブルリーダーから３分程度でまとめを発表いただきます。まとめと言ってもそんなに立派なものというよりは、たぶん、先ほどの中間の取りまとめというか、審議経過の取りまとめで抜け落ちているところとか、これまでなかなか発言の機会がなかったので本当はこういうことなかなか伝わってないけど大事なのだとかいうようなことを、洗いざらい出していただくのがものすごく大事だと思います。

ここでテーブルの何らかの方向性を決めていただくとか、そういうことを意図しているわけではないので、自由に気付いたこと、あるいはかねがね思っていたことをお話いただければなというふうに思います。

ですので、テーブルリーダーにもそんなにきれいなまとめを私は期待しているわけではございません。こういう面白い意見がありましたとか、こういう大事な視点がありましたとかご紹介いただければ、それでいいと思っております。

では、これからディスカッションに１時間取ります。19 時 50 分までなのですけど、自由によろしくお願いいたします。

（テーブルディスカッション）

各テーブルのディスカッション内容については、14～17 ページをご参照ください。

## テーブルＡ 【視点②】仙台でともに活きる、【視点③】仙台で暮らす

地域と暮らし

多様性／地域コミュニティ

※青字は事務局による補足

### 審議経過

もっと表現を工夫した総合計画にする

・「４つの都市個性」の文章をもっと整理（メリハリがあり短くビビッとくる文言）してはどうか
・総合計画は当たり障りのない文言の羅列ではなく、もっと当て込んでもいい
・このままでは平均的な計画になる気がする。仙台市がどこを目指すのか意気込みが見えない

「共生」の使い方の精査が必要

・「共生」という言葉があちこちで使われるようになったが、本当の意味とは違う使われ方をしているのでは。もっと具体的に表現をしないといけない
・「共生」が色々な分野（性別、障害、高齢、子ども、国籍など）にわたるので整理したほうがよい
・共生という言葉（考え方）のもつ多様なテーマ（フィールド）の扱い方が問題だ
・「高齢者」といっても自立して他の人を支える人も多い

「共生」のあるべき姿

・「共生」は共感と理解と擁護から生まれるものだ
・「共生」を伝える、学ぶことが必要
・子どもも大人も障害を持っている人もシニアも、それぞれを尊重し合える人づくりがないと本当の「共生」は存在しないと思う
・一人一人の個性を活かした「共生」が望ましい未来を開くことになる
・共生という視点（価値観）をどれだけ「我が事」として捉えるかが重要
・多様性の理解が必要
・手伝いを必要としていることを察して自然に助けてあげられるといい

当事者の声を聞く

・福祉・障害者に関することを当事者抜きで決めないでほしい
→　仙台市ではこれまで当事者ニーズに応じた整備を進めてきたことが評価されている
（地下鉄東西線の段差のないホーム、津波避難タワーに設置したスロープ）

### データ

・区別データをみて区別計画に反映させる
・単身世帯の中の高齢者の割合もあればよい
・高齢化率は地域によってバラつきがある。地域課題を論じるにあたり、各区・各地域包括支援センターのデータが必要だ

### 掛け合わせ

地域×ＮＰＯ・学生・企業

・地域団体、ＮＰＯと高校生・大学生のコラボレーション
・地域の防災訓練に大学の学生が参加している（宮城大、学院大）
・生徒・学生が地域団体の話し合い・運営のサポートをする
・地元の大学と地域との連携が大切であり色々と力になる
・企業や行政で副業化が進んでいくので、企業が地域で活動できる仕組みを作る
・町内会の行事・活動に地域住民の一人として参加できるように
・社協、包括、町内会、学校のスーパーバイザーから構成される産学官民のビジョン協議会のような団体を広めたい（中学校区レベル）

地域×ＩＣＴ

・地域団体の運営について企業と連携する（ＩＴ面）
・地域課題解決へのＩＣＴの活用

地域課題とその情報発信など

・地域の良い取り組みが他の地域に伝わっていない。地域の文化伝統を知らせる情報発信が必要だ
・買い物弱者・交通弱者など、本当に困っている人に情報が伝わるようにする
・ごみ捨てなど、高齢者が町内会で助け合いをしているが、高齢化が進んでいる
・泉区は高齢化率が高く、郊外団地の問題解決が急務だ
・郊外団地に若い方に住んでいただけるような施策が必要だ
・鉄軌道の近くに住所（住居）の移動を進める施策が必要だ
・利用者が少なくなるとバスは少なくなる。地下鉄の利活用の必要性必要に応じて延伸を検討する
・地域政策の振り返りと見直し

### 取り組みのイメージ

アクションプラン

・「地域でともに暮らすなら隣人と話をしよう、気にかけよう」といった市民の具体的なアクションプラン・行動計画を入れてはどうか
・総合計画が、実施計画・地域でのアクションにつながるようにする必要がある
・総合計画から実施計画に移行する流れを大事にしたい。実際に動けるような表現とすべきだ

自分を伝える力

・地域の中での掛け合わせには学びや情報提供が必要になるが、自分のことを伝えることにためらいを持つ人もいるので地域の共生には課題が多い
・障害者自身が不便なこと・困っていることを周りに伝える力を持つことが必要だと言われている必要な配慮、「合理的配慮」が当たり前になるように

・障害があって困ることがあってもそれを解消すれば自分の力を発揮できる。障害がある子どもの社会参画のために障害者手帳が有効であることを、親に伝えていかなくてはならない

・今まで問題があっても見えてこなかった（8050問題、引きこもりや不登校など）がひずみが大きくなってきた。社会参加、社会共生を具体的に考える必要がある

伝える場・つながる仕組みづくり

・“まるごと”地域で相談できる場づくり
・地域内での情報・伝える工夫を
・今よりもっと地域支援ができるように市民センターのバージョンアップを図る
・伝えられない人のアドボケード、つなぐ人が必要
・「共生の場」を地域の中で作り、繋がって支援と協力を掛け合わせていくといいのでは?!
・「つなげる」役割の人たちが知り合える多分野・多セクターが必要だ
・「伝える場」が地域にないと、本当の声が聞こえなくなる。行政、地域各団体、学校などとつながって支え合う仕組みが必要だ
・どこに相談すべきなのか分かるように、支え手（民生委員、コミュニティソーシャルワーカー、生活支援相談員、保健師、地域包括支援センターなど、多様な専門職）の違いが普通の人にも一元的に分かるとよい。相談できる機関の連携、明確化が必要
・発達障害、心の病、引きこもりなど、区役所に相談に行っても担当部署が定かではなく、たらい回しになっていてもったいない。行政、学校、地域が一緒にやらないと対応が難しい
・「困ったことはなんでも地域包括支援センター」ではなく、どうするかが今後の課題だ
・我が事丸ごとにするためのシステム化

行政組織内での実施体制

・掛け合わせの取り組みやビジョンについて担当する「掛け合わせ部局」「共生・協働部局」を作る
・市役所・区役所内に、町内会、企業、地域などの複合要素をソーシャルコーディネートする部署を作る

## テーブルＢ　【視点④】仙台で育つ、【視点⑤】仙台で学ぶ・活かす

**【視点④】**
**仙台で育つ**
**～子ども・子育て応援まちづくり～**

**テーブルＢ**
**チームメンバー**

・未婚、子どもいない
・ＰＴＡ
・小児科医
・教育（専門は不登校）
・ＮＰＯ（子どもの居場所づくり）
・企業経営者（小６と５歳のママ）
・市議会（市民教育委員会委員長）

**【視点⑤】**
**仙台で学ぶ・活かす**
**～学びの環境づくりとチャレンジ応援～**

# 「多様性が当たり前」を教える場がもっともっと必要！

・いろいろな状況の人がいるので、こうあるべき論ではなく、選択できる社会づくりが必要
・「みんな違うことが当たり前」ということを知ることができる環境づくりが大事

### データ等からの気づき

### 産後の孤立
### 相談体制・制度の穴に落ちてしまう人の存在

・子育てに関して気軽に相談できる人→「親族」６～７割と高い「医師、保健師、看護師、栄養士等」６％しかない
・仙台では親族が近くにいない、親族に頼れない環境の人も多い
・平成７年当時は「仙台の子育てサポート力は弱い」と他県の医療機関から言われていた

・産まれたあとに孤立してしまう
・孤立した育児による虐待

・行政の呼びかけは「大丈夫」と拒否される
・家庭訪問しても拒否される
・地域の人は見守りたいけど「余計なことをして！」と言われるのがイヤだが、ＮＰＯはその間に入ってクッションの役割を担うことができる

・相談できない人が一人で苦しんでいる
・相談できず、制度の穴に落ちてしまう人がいる
・経済的な問題のため、周囲につながれなくて孤立してしまう

・１歳６か月健診が怖いと言うママがいる
（初対面の保健師に、発達の遅れを指摘される不安がある）

### 多様性が当たり前の地域社会へ

・引きこもりの人が引け目を感じなくても生きられる地域、支えられる地域だと良い
・「心身ともにたくましく社会に羽ばたける」は理想ではあるが、地域社会で自分らしく生きられる社会、一人一人が活かされる社会であるべき

### 子ども・子育てを通じて大人が学ぶ

・時代の最先端を感じているのは子ども！
・子どもから親が学ぶ。一緒に学んでいく
・ママには多様性を教える機会を作り、子どもがいない人にも子育てについて知る機会を作る
・「大人も学びましょう」というムーブメントを作りたい

### 多様性の受け入れの欠如

・多様性があることは当たり前なのだが、制度が多様性に対応していない
・制度は効率を重視し、個や多様性を度外視してしまう
・現在の乳幼児健診制度は全員に一律でできる効率的なやり方で行われている

・「学校に行かなくてはダメ」など、画一的な価値観を押し付けない
・個性・多様性という見方ではなく、平均以上・平均以下という見方で比べてしまっている

・ＰＴＡの担い手が減っている
・「働く」と「育てる」との矛盾をなんとかしたい

### 大人（親・先生）の価値観は多様性を伸ばすことにつながる

・障害のある子どもの対応について、当事者の親が前に出て判断・選択することは大事。親がどう道を作るか
・大人は画一的な価値観に縛られがち。大人がどういう価値観をもって子どもに示すかは大事だ
・多様性を受け入れてくれるような学校の先生の声掛けも大事だ

### 自然につながる育児サポートの場づくり

**掛け合わせ？**

・相談相手がいることで母親が落ち着く
・かかりつけの看護師がいたら良い
・お母さんをサポートできる周囲の関わり
・育みをサポートする場＝親をサポートする環境
・拒否から始まらないように自然な場づくりをする
・地域とＮＰＯで連携して見守りをしている
（ＮＰＯが町内会と児童相談所を繋ぐ役割を担う）

### かかりつけ医の活用

・かかりつけの小児科医・看護師をもっと利用してほしい
・クリニックに行くとママ友に会える
・小児科医は子育て支援の役割の比重が増している
・心配するママたちに適切な情報を伝えることが大事だ
・母乳育児ができなくてもミルクで良い
お母さんへのストレスが一番良くない

### 子ども目線の計画であるべき

・子ども目線、子どもを主体に考える必要があるのではないか
・いじめ対策は子ども目線の解決策が必要
・「子どもが主体」というのは大事
・子どもが危ないときに救い上げるのが見守り手としての大人の役割・責任だ

### ＰＴＡ・担い手の多様化を図る

・ＰＴＡや町内会ももっとＩＣＴを活用すれば、多様な担い手が参加できるのではないか
・すべてを学校でやることはできない。
「学校でやってください」にはしない地域や保護者になる
・ＰＴＡに入りやすい環境づくり
・働く場も、子どもに関わる組織も変わる必要がある
・できる人ができることを１つしてみるきっかけづくりが大事。関われたことで生まれる喜びが次へとつながる

※青字は事務局による補足

# テーブルC 【視点①】仙台を磨き伝える、【視点⑦】躍動する仙台を創る

杜の都の資産を活用し、
もう一度来てみたいと思わせる
- 七夕まつり
（仙台を代表する市民協働の姿）
- 初売り
- 政宗

**防災環境**

↑
世界に向けて売り出すなら
「防災環境都市」

・「防災観光」にもつながる

・ブランドとしての「防災環境」を「防災ビジネス」につなげ、
経済効果を生むことも重要

・東京から企業のバックアップセンターが仙台に次々来ている。
災害時対応型のグレードが高い建物を作れば企業誘致にもつながる。

**観　光**

**市民のくらし**

‖

・住んでいる人にとって居心地の良い場所・環境は、観光で訪れた人にとっても良いことだ
・すでにあるものを役立てることでも人を呼び込める
・留学生にとっては、仙台は落ち着いていて人がごちゃごちゃしていなく、しっかりと勉強に向き合える環境だ
・都市の暮らし自体を売りにすることを追求すべき
・今後の観光は「歴史まちづくり法」を活用し、昔の伝統を残して市民も安らぎを感じるまちづくりが必要

・観光の在り方が変化
→「動かない観光」、ボーっとする、たたずむこと自体が観光として成立する

・観光は人数ではなく経済効果（観光消費単価を上げる）を重視すべき。質の高い観光を提供することを大切にする

●日本人の観光
・東北からの観光客が多く「都市型観光」
●外国人の観光（インバウンド）
・空港を玄関口とした東北各地を巡る「広域周遊」
・仙台空港から入り、函館空港から出国するパターンもあり、InとOutの組み合わせを踏まえて考えるべき

・仙台から１時間圏に松島の海、蔵王の雪、世界農業遺産の大崎耕土があり魅力的

**杜の都**

・仙台の象徴である「杜の都」自体が、
①～③の掛け合わせになっている
・日本の中で競争せず、世界で認められるレベルまで磨けばいい

①防災と環境保全
②経済効果
③ブランド、市民の誇り

「杜の都」を見えるカタチにする
都心とはどこ？

＜都心＞
・広瀬川～青葉山を含む
・駅～青葉通
・市役所～定禅寺通

中心市街地の魅力向上
固定資産税アップ

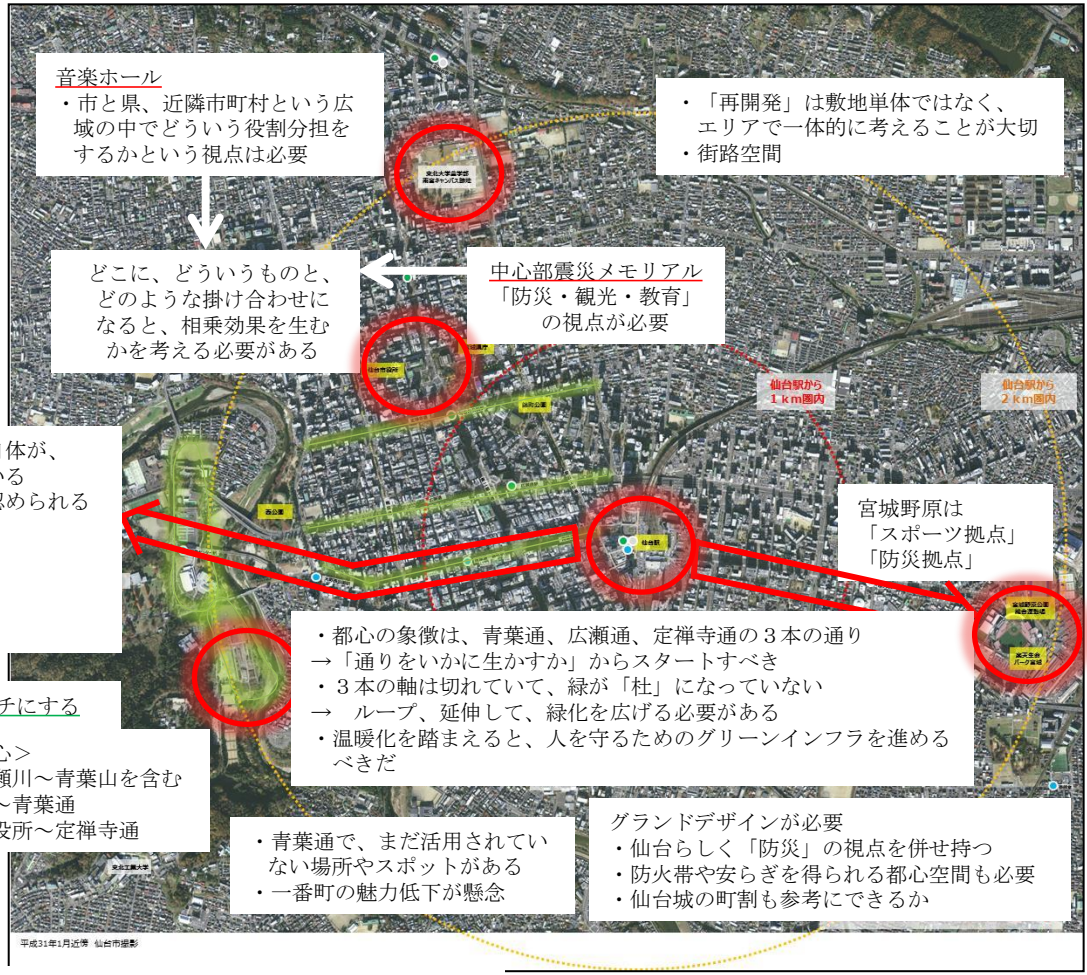
**都心再構築**

・都心は「商住混在」しているから賑わいができる。
いつも人がたくさんいる状態になる。
・マンション建設が盛んだがそれだけだと都心の魅力は向上しないのでは

**景観**

・他都市に比べて仙台の都心はキレイ

・古い建物の建替えに備えて景観などを条例で押さえておかないと野放図になってしまう




音楽ホール
・市と県、近隣市町村という広域の中でどういう役割分担をするかという視点は必要

どこに、どういうものと、どのような掛け合わせになると、相乗効果を生むかを考える必要がある

中心部震災メモリアル
「防災・観光・教育」の視点が必要

・「再開発」は敷地単体ではなく、エリアで一体的に考えることが大切
・街路空間

宮城野原は
「スポーツ拠点」
「防災拠点」

・都心の象徴は、青葉通、広瀬通、定禅寺通の３本の通り
→「通りをいかに生かすか」からスタートすべき
・３本の軸は切れていて、緑が「杜」になっていない
→　ループ、延伸して、緑化を広げる必要がある
・温暖化を踏まえると、人を守るためのグリーンインフラを進めるべきだ

・青葉通で、まだ活用されていない場所やスポットがある
・一番町の魅力低下が懸念

グランドデザインが必要
・仙台らしく「防災」の視点を併せ持つ
・防火帯や安らぎを得られる都心空間も必要
・仙台城の町割も参考にできるか

深化とは？
→　優れているところを強化する。世界レベルまで伸ばす
→　防災のような意味を含め、「杜」の定義を拡張する
→　市民が向き合う・使う・使いこなす

品格
→　格調高く品のある都市は経済効果につながる

# テーブルD 【視点②】仙台でともに活きる、【視点⑥】仙台で働く

※青字は事務局による補足

## 【視点②】 仙台でともに活きる ～多様性が活きるまちの実現～

仙台らしさ、東北らしさが足りない

**全体＆掛け合わせ**

- 一般論すぎて特色なく、つまらない
- 仙台らしさを感じられず当たり前すぎる

多様性が当たり前の社会へ

- 一人一人が違うのは当たり前。バリアフリーではなくノーマライゼーションの視点があったほうが良い
- 理想は心のバリアがなく、多様性であることが当たり前の社会

**●視点（未来の状況）**

- 東北の中心だからこその多様性について言及すべき（支店経済、若い人がたくさん流入するダイバーシティ、外国人比率が高い東北大学）
- 人口動態を変える
  支店経済で仙台に来て出て行った人がいつか“戻りくるまち”へ

**●施策形成の背景**

- 外国人、ケア、男女共同が一緒の分野となっているのに違和感がある。区分して書いた方がいいのでは？

**●取り組みのイメージ**

- 「多様性の受け入れ」に関する記載はあるが「多様性が活きる」取り組みはまだ書かれていない（例：ビザの簡素化、起業支援、特区の活用など）
- 「視点②ともに活きる」は「視点⑤学ぶ」「視点⑥働く」と相乗効果がある

### 違いを知ることがまず大事

- 一人一人の違いをまず知ることが重要。違いを分かり合える教育の場づくりが必要
- 性、LGBTQ、仕事、国、障害、病気、加齢に応じて、できることとできないことの違いはなにか？　当事者にならないと違いやできないことが分からず助けることもできない

### 外国人が住みやすい社会

- 多様な国籍の人が普通に生活し合う社会づくり
- 多言語でいつでも相談できる体制が仙台市中心地にあると行きやすい
- 外国人本人のフォローは会社がしてくれるが、本人以外の家族のフォローも必要

### 多様な働き方（女性、高齢者、病気、暮らし方）

- 仙台市のママの就職率が低い。女性活躍のためにはそれを改善する取り組みが必要だ
- 「子育て世代（母親）の働く場づくり×高齢者の生きがいの場づくり」として、シェアアグリは短時間勤務が可能な仕組みである
- 高齢者が若干の収入を得ながら生きがいにもつながり、若者や子どものために活躍できるような仕組みを作ってはどうか

- 病気になると働き続けることができない。治療しながら働き続けられるようにする
- 女性は長生きだが介護などが必要な期間が10年程度あり、女性の健康支援が女性活躍につながる

- 多様な暮らし方、働き方を尊重することは重要だ
- 鬱になって働きたいが働くことが怖い人もいる。２～３時間だけ働くシステムを試行している。複数人が仕事に関わることでリスクヘッジすることができる。
- IT業界ではない一般企業でもそのような多様な働き方ができるようになると良い
- アメリカでは個人のコンサルやフリーターがたくさんいるため、欠員がすぐ補充できる
- 日本で多様な働き方ができない理由は、そもそもそのような雇用体系がなく労働法上も制約があるため
- 東京都ではテレワークを進めており、日本でも変わる兆しはある

## 【視点⑥】 仙台で働く ～働く場所として選ばれる環境づくり～

**全体＆掛け合わせ**

- もっと東北全体を意識した政策支援をすべき
- 仙台の歴史や伝統も大事にし、高付加価値をつける
- 多様な働き方を確立することで、東北を牽引し全国のモデルになれると良い
- 企業が主語になっている感じを受ける。“働く”なので人が主語であるべき
  →　企業が主語となるものは「視点⑦躍動する仙台を創る」にすべき
- 何を目指すのか（就労率No1？働きやすさNo1？）働きやすさは何で測るのか？
- 新たな基幹産業を仙台に根付かせる（神戸市はメディカルに注力）

**●施策形成の背景**

- 支店経済を強みとする。支店が増え、転勤で仙台に来た人が戻ってくるまちへ
  →「視点②ともに活きる」との掛け算
- 学生が地元定着しないと言われるが、地元企業のPR（働きがいやNo1など）が不足
  →　学生（親）に伝わっていない
- 仙台は出る杭に対して足を引っ張る文化があるので、引き上げる支援・風土ができると良い

**●取り組みのイメージ**

### 多様な働き方

- 「ライフステージに応じた就労」とあるが、最も重要なのはライフステージではなく本人の生き方や希望である
- 人生100年時代の新たな概念として「キャリアモデル」を定義し、それを構築するサポートを現在始めている。生き方に応じて様々な活動を能動的に選択・組み合わせる「キャリアモデル」を広げたい
- 心の健康づくりを支援する取り組み、生き方とそれをサポートする仕組みづくりが必要だ

### 様々な活動に参加しやすい働き方

- 地域活動しやすいまち。働いている人も町内会活動や民生委員活動に関われるように、仙台の企業は地域活動をしやすくなければいけないなど、取り組みや助成を行う
- 多様な働き方ができれば様々な活動に参加できる
  年代に関わらず色々な人が参加すると仙台が良くなる・楽しくなる

### 学生向け

- 仙台市はスタートアップに力を入れているが、10～15年以上経つ企業のフォロー支援や後継者がいない廃業直前企業への支援もあると良い

- 「学校×企業」学生のうちに働く楽しさを知る教育をもっと進めるべき
- 大学生に働くことについてレクチャーしているが、企業の話を聞いて自分の生き方を選ぶことも重要だ

### 農業×テクノロジー

- 農業の担い手も高齢化が進んでいる
- LINEを使って試験的に大学生グループに農業の手伝いを依頼している。
  これから主婦層や高齢者にも展開したい
- 農業のツラいイメージを払拭する「カッコいい農林水産業なら仙台」クロステックの取り組み

### 学都・テクノロジー 新しいビジネス創出

- 転勤するなら仙台へ　働きながら学べる都市をアピール
- 最新の情報が学べるまち。すべての人にとっての「学都仙台」

- 誰もが使いこなせる、人にやさしいテクノロジーが当たり前の社会
- 質の高い知的資源が市民や企業の身近に使える社会になってほしい
- 小さいながらも質で大都市に勝つビジネスモデルがあふれる「クオリティシティ」
- 放射光施設は起業の起爆剤になり得る。鶴岡市では大学研究施設ができて新しい企業が生まれた。バックアップが必要（学術面や資金面）

(4) テーブルディスカッション（発表）

○奥村誠会長

先ほどお願いしてからちょうど 60 分経ちました。まだまだ議論は尽きないというところはあると思うのですけれども、時間ですので、いったん終了していただきまして各テーブルの意見について、テーブルリーダーから簡単に発表していただきます。

それぞれどういう意見があったかというようなことをご紹介いただければと思います。Ａテーブルの遠藤委員さんお願いできますか。

○遠藤智栄委員

Ａテーブル、「地域とくらし」、「多様性」と「地域コミュニティー」のグループになります。いろいろ出たのでいくつかピックアップしてご紹介するということで進めさせていただきたいと思います。

最初に４つの都市像のところの話を皆さんとした時、「共生」というところが、ある意味「くらし」に近いのではないかということでその辺りにフォーカスした話になったのですけれども、そこで皆さんから、ちょっと心配の声がありました。「共生」という言葉がもう今皆さん市民もいろいろな方が使っている状態なのだけれども、本当に共生の状態なのだろうかと。ですから記載の仕方も、網羅する記載から、もうちょっと理解していただくのに踏み込んで表現の工夫が必要じゃないかと。それでどういう表現にしたらいいのかという工夫も、私たち委員としてもどのような表現がいいかということを考え続けなければいけないなという話になりました。

今回、総合計画の議論をしているわけですけども、総合計画と実施計画と地域でのアクションがつながっていくような、その先を見据えたプロセスも、きちんと総合計画の議論の中で話し合っておく必要があるのではないか。ここで委員の皆さんが熱心に話して、それがつながりにくいとか、現場までどうやって本当にリレーしていくのかとか。そういったところもここに記載するのか、そういったこれからのプロセスも考えておく必要があるのではないかという意見がありました。ですから、少しこの審議経過の内容からは、もう一歩外の視点というのでしょうか、そういう部分でのご提案がありました。

後は、「地域とくらし」なので、実際に声を出せない人、出しにくい人というのもやっぱり地域にいらっしゃると。そういった時につながれる人、アクティブな人たちはどんどんつながっていくわけですけどもつながりにくい人たちはやっぱり、つなげてくださる人たちとどうつながるか。そこがつながれてないので支援が届かないとか、制度に届かない。そういったことがまだまだたくさんあるということで、つなげる役割の人とどうつながるのか、そしてそのつなげる人たちが各分野にいるわけですけども、その人たち同士がどういうふうにつながっていけるのか、ということが伝えられない人のアドボケイトも含めて必要じゃないかという話が出ました。

今、仙台市全体で議論をしていますけども、各区、各エリアでかなり差があると。こういったところを、今回は仙台市全体のデータとして出していただいていますけども、区別データなども見ながらもう少しフォーカスした議論をする必要もあるのではないかと。場合によっては、区の計画づくりということに踏み込んだり、それもチェックしながらもう

少しこれも入れるべきではないか、考えたほうがいいのではないかと、少し細かいデータと区別計画と総合計画との関連性というところのご意見が出ました。

掛け合わせという点では、「若い世代と地域コミュニティー」「地域とくらし」「若い世代とのコラボレーションとか連携」が大事で、今どんどん進んでいる実例もこの中でお話があったのですけども、そこをさらに進めていく必要があるのではないかというようなご意見が出ていました。

また、コミュニティー、地域の情報というのはなかなか伝わりにくいということで、そういった地域の文化・伝統を知らせるような情報発信がさらに必要だと。そういった時に、ツールが得意な方は地域にいない場合もありますので、場合によっては企業とも連携していく必要があるのではないかというようなことです。地域課題へのＩＣＴの活用なども必要ではないかと。そうすることで「わが事まるごとの仙台市」になっていくのではないかとご意見がありました。

総合計画をより地域で噛み合わせて、産官学民をさらに掛け合わせていくためには、実際に今もう取り組まれているという話もあったのですけども、エリア単位でビジョン、地域のビジョンを考えるような場を持って、場合によっては協議会を持って産官学民が地域のことをがっちりと話をするような場も必要じゃないかと。地域によって違うけれども、中学校区単位ぐらいでやれるといいのではないかというご意見が出ました。

○奥村誠会長

ありがとうございました。Ｂテーブルは同じく「地域とくらし」に関連してですけども、岩間委員さんからお願いできますか。

○岩間友希委員

Ｂテーブルは「仙台で育つ」という視点と、それから「仙台で学ぶ・活かす」という視点について主に議論をしてきました。このテーブルの構成は４人の子どもがいるシングルマザーの方ですとか、２人の子どもを持って企業経営されている方、教育畑で不登校についていつも研究されている方、市民教育委員会委員長の方、小児科の先生、後は子どもの居場所づくりに取り組むＮＰＯをされている方、そして子どももいないし結婚もしていない私です。想像していた通り、子育てについてすごくたくさん話題が出て、そのまま視点５のところに議論が染み出していったというような全体の流れでした。

視点４と視点５、やっぱり議論の中でどちらも共通したワードになったなというのが、「多様性」というワードでした。まず視点４のところで、具体にいろんな挙がったものを読んでいくと、Ａのテーブルと似た意見が出たのですけれども、孤立と相談体制のことは意見が出て、制度はあるのだけれども、その制度の穴に落ちてしまう。行政が手を差し伸べてもそれを拒否してしまう。私にはそんな助けは必要ないわと言ってしまうような家庭もあるし、生まれた後の孤立を防いでいくというのは、実はクリニックとかでもかなりやっているのだけども、やっぱりそこにまで至らないという方もけっこう多いというようなお声もありました。

ではどうするのと言った時、ＮＰＯ法人ＳＴＯＲＩＡさんがやっている事例、ＮＰＯと

町内会が組んでそういった家庭を見守ってあげるというようなことをやっているのですけども、すごく良い取り組みだなと思います。そういうことをどんどん増やしていくような視点も必要なのではないかとなりました。

そんな議論をする中、具体的には視点４のところ、「心身ともにたくましく育ち、社会に羽ばたける地域社会を目指す」という文言があるのですけども、そういう孤立が起きる背景の１つに引け目を感じてしまうことがあるのではないか。うちの子は障害があるのではないかしらとか、うちの子ってほかより劣っているのではないかしらとか、そういうことについて、もちろん心身ともにたくましく育てれば理想なのですけれども、そんな理想ばかりではなく、それについて引け目を感じ始めると孤立につながるという重要な議論がありました。

視点４が大人の目線に立っている文面だから、もっと子どもの目線に立った、多様性が本当に当たり前になっていく社会について、それが 10 年後に当たり前になっているという文面で書き直した方がいいのではないかとういような意見がありました。そのまま多様性というのは視点５のところにもいったのですけども、今の視点５の文面だと取り組みのイメージのところとかはけっこう学術的なイメージがあるのですけども、多様性は当たり前だとか、子ども、時代の最先端、社会が著しく変化すると書いてありますけど、実は時代の最先端を感じているのは子どもであって、子どもと一緒に大人も学ぶ、そういうような機会を提供していくのも学びの１つではないかという議論がありました。実際そうです。この視点５だと連携とかそういったことはすごく書いてあるのですけども、子どもが孤立しないとか、親が孤立しないための教育の提供とか、そういうことはたしかに視点としては書いていないので、そういうことは追加してもいいのではないかという議論がありました。

結論は、「大人も学びましょうよというムーブメントを起こしたいよね」ということで、このテーブルは締めさせていただきます。

○奥村誠会長

ありがとうございました。それでは榊原委員さんからＣテーブルのご紹介をお願いします。

○榊原進委員

「まちと活力部会」のＣテーブルでございます。一番最初は、そもそも杜の都というものには３つの効果があるとのお話をいただきました。１つ目は「防災、環境保全」という効果。２つ目が「経済的効果」。３つ目が「世界に対するイメージ、ブランド」で、そもそも杜の都に対してもうすでに掛け合わせの要素としてなっているのではないかというところから議論はスタートして、その後都心再構築の話になりました。

そもそも「都心再構築」の目的は、仙台市役所とすれば固定資産税をアップしていくということが１つ大きなところとの意見がでました。マンション単体だけではそれは、生産性がないので、実は土地価格を押し上げるというのは大変難しくなるので、やっぱりそこはマンションの低層部等を含めて商業と住民が混在する、人が住むまちで、まちなかに人

が出てくるまちを目指すべきとの方向性がでました。

では、その時に「杜の都の都心」というのは、そもそもどこのエリアを示しているのかという問いが投げかけられました。都心といわれると商業や業務が集積している地区をイメージするのですが、「杜の都の都心」となったときにやっぱり広瀬川や西公園、青葉山も含めた部分という要素が１つあります。また、現代の杜の都を象徴する青葉通、定禅寺通、広瀬通というものは、例えば青葉通だと駅前を拠点にした青葉山、広瀬川につながっていきますし、定禅寺通だと市役所周辺を拠点にしながら西公園、広瀬川の方につながっていく。そういう都市計画的に見える形での「杜の都の都心」をしっかり明示していくことが少し必要なのではないかという議論があったかなと思います。

また、観光の話が出ました。そもそも日本人、特に東北の方が仙台に来るのは「都市型観光」を楽しみに仙台を訪れている。インバウンドの方はどちらかというと仙台国際空港を経由して、「都市型観光」に来るというよりは、東北を巡っていくということです。仙台は１時間圏で世界遺産を巡ることができたり、海があり山がありを含めると、やはりそういう都心で東北を周遊するための玄関口としては拠点になり得るのではないかとの意見をいただきました。

一方で、「都市型観光」になった時に、そもそも市民の生活に影響はないのかという話になった時、そもそも市民のくらし自体が「都市型観光」の１つの要素になるのではないかということであります。その時には何人来たかというよりはどれだけ観光消費があったのかという視点で観光を見るべきではないかというご意見がありました。

また、観光とか杜の都とか都心という意味では、「防災環境」というものは、世界を見ると仙台防災枠組があって、１つ大きい資源ではないかとの指摘がありました。それが今ブランドとして認知しているけど、先ほどの杜の都の経済効果にまでいってないので、「防災ビジネス」というものをしっかり考えていく必要があるのではないかということがありました。

いずれにしてもグランドデザインが必要だよねというところが出たのですが、この航空写真を見ながら今ホットなプロジェクトのキーワードも出たりしました。

最後に、「杜の都の深化と継承」との言葉が視点１の中にあって、「深化」ってそもそも何だという議論がありました。強化していくということもあるし、時代とともに定義が変わっていく、拡張していくということもある。豊かな緑を市民が使いこなしていくことが深化につながるのではないか、それが杜の都の品格につながっていくのではないかという議論が最後の５分で交わされました。

○奥村誠会長

それではＤテーブルのご報告を浜委員さんからお願いします。

○浜知美委員

Ｄテーブルはまずそれぞれの視点で話し合いました。

視点２は「仙台でともに活きる～多様性が活きるまちの実現～」で話し合いました。そして会長には大変申し訳ないんですけど、視点の記述自体もちょっと弱いのではないかと

いう意見が出てきて、一般論すぎて特色がない、あと仙台らしさがない、なぜこの視点が今できていないのかということを考えていかなければいけないのではないかという意見も出ました。取り組みの方なのですけれどもたくさん出まして、多様性というのはさまざまありますので、多様性が活きる取り組みを、企業支援ですとか、特区の活用ですとか、ビザも市でできることは国のこともあるので限られると思うのですけども、市オリジナルで何かできることを考えていくべきではないかという意見が出ました。多様性が活きるということでは、例えば病気になられた方も治療をしながら働き続けられる、そういうキーワードも出ました。

農業に携わられている遠藤さんがいらっしゃいますので、高齢者の生きがいの場づくりの話題も出ました。シェアアグリということで、農業を短時間で働くみたいなことでいいのでしょうか。そういう取り組みをやられているそうです。そういうシェアアグリと子育て世代の働く場づくり。そういうところで掛け合わせて働く場所を作っていくのがいいのではないかとか、そういう意見が出ました。

また、外国人が住みやすいまちづくりで、相談が多言語でいつでもできる体制というのをつくっていくべきではないかという意見が出ました。

視点６では「働く場所として選ばれる環境づくり」ですけども、これは働く場所としてということなので、人をすべての主語に、企業ではなくて人を主語に変えた視点にするべきではないかという意見がありました。仙台は東北を牽引するまちなので、東北を意識した仙台を掲げるべきではないかという意見、東北を引っ張る、全国のモデルになる、こうわくわくするような視点を入れるべきではないかという意見が出ました。実際の取り組みですけれども、多様な働き方ということで今キャリアアップではなく、キャリアモデルを構築する働き方というのが注目されていて、本人の生き方や希望を主軸に働き方を作っていくそういう取り組みができればいいのではないか。また働きながら学べる都市であることとか。

あと面白かったのが、町内会の取り組みというのは仕事を休んだりするのが気が引けたりするのですけど、会社の方が町内で地域活動してきていいよという環境をつくっていくということも面白いのではないかという意見が出ました。たくさん面白い意見が出ましたので、是非後ほどご覧いただければと思います。

○奥村誠会長

大変ありがとうございました。それぞれ記録を残していただいています。面白いものがいっぱい出たのではなかろうかと思います。講評はしませんが、こういう機会もあって良かったかなと思っています。

それではディスカッションで出た意見は事務局の方で取りまとめて、今後の部会の議論の材料にしていきたいと思います。事務局の方でよろしくお願いいたします。

(5) その他

○奥村誠会長

最後にその他ですけれども、委員の皆さまから何かございますか。

よろしいでしょうか。次回から部会になります。

4　閉会

○奥村誠会長

本日の議事は以上で終了したいと思います。

最後に事務局の方から連絡があると思いますので、よろしくお願いします。

○松田政策企画課長

事務局から１点ご連絡がございます。次回の審議会は部会での開催となりまして部会ごとに別日程での開催となります。時期は 10 月下旬頃を予定しております。少し間が空きますが８月下旬から９月初旬頃に日程調整のご連絡をさしあげたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

○奥村誠会長

以上を持ちまして審議会を終了といたします。

どうもありがとうございました。